市立図書館パネルディスカッション

中心市街地中核施設「Mallmall（まるまる）」の開館１周年を記念して４月27日、当該施設整備支援事業基本計画アドバイザーの小場瀬令二さんを進行役に、市立図書館の整備・監修に携わってきた４人と市立図書館長、都城市長が、図書館に込めた思いとこれからの展望について集まった市民の熱い発言も聞きながら意見を交わすパネルディスカッションを開催しました。

◎問い合わせ　秘書広報課　☎23-3174

進行役とパネラーのみなさん

図書館の空間デザイン総合監修
㈱アイダアトリエ代表取締役
会田 友朗さん

図書館の総合プロデューサー
㈱マナビノタネ代表取締役
森田 秀之さん

整備支援事業基本計画アドバイザー
筑波大学名誉教授
小場瀬（おばせ） 令二さん

開館から1年が経ち、来館者が117万人を数える市立図書館。多様性のある設計や図書館の概念を超える活用で、全国から注目され、多くの見学者も訪れています。今回、市立図書館パネルディスカッションに詰め掛けた150人は、パネラーらの同館建設に込めた思いや、今後の展望に耳を傾けていました。

Q 小場瀬さん

「図書館は静かである」という一般的な図書館の概念を打ち破り、本を読むことはもちろん、人々が活動する空間や、情報を発信する場所として、開館から1年経った今も、多くの人々が訪れている都城市立図書館。図書館の整備コンセプトと、今後の展望について教えてください。

A 森田さん

人々が集い、情報が見つかる「居場所」になるような空間が実現した。今後は、まちや地域の記憶をどう継ぐかを考える場所になってほしい。それを考えることから行動が起こり、新たな地域の創造、都城の未来につながっていくことになる。

A 会田さん

ショッピングモールであった空間が、新しい図書館像を生む契機となった。同館の通路をまちの往来に見立て、地域と共同開発した木箱架などの家具を、歩くことが創造的な発見につながるよう配置した。今後、図書館が人々の記憶やまちの移り変わりを記録・編集しながら、次世代に伝えていく場所になるといい。

Mallmall開館1周年記念

池田 宜永市長

井上 康志市立図書館長

図書館のカフェ開店準備の監修
フォーハーツカフェ代表
大木 貴之さん

図書館のアートディレクター
じんちょう事務所代表
井口 仁長さん

A 井口さん

市立図書館の利用者の活用状況に合わせ自由に書き込める案内板（サイン）をイメージ。併せて、居心地の良い空間になじむよう、館内の各種サインをデザインした。今後、公共のサインにもルールを設ければ、まち全体に統一感が生まれる。その中心に図書館があるといい。

A 大木さん

人々が集まる場所をつくる人、地場産品などを加工し販売する人、それを購入する人、また、その場でチャレンジしようとする人が集まることで、地域内の経済が循環する仕組みをコンセプトに、カフェを提案。今後は、よりみんなが集まる図書館に育ててほしい。

A 井上館長

市立図書館の開館から1年が経ち、ようやく市民の皆さんに居心地のよい、誇りに思える場所ができたと実感している。ここで市民の皆さんが、まちや地域のことを思い、新たな行動を起こすことができれば、地域の未来が見えてくる。今後、そうした活動も支援していきたい。

A 池田市長

一般的な図書館のイメージと市立図書館のギャップが、利用する皆さんに好意的に受け止められている。関係者の英知が結集した「居心地の良いたまり場」というコンセプトを大切にしながら、市民の皆さんが自ら考え、行動し、チャレンジできる場所として、市立図書館を育てていきたい。